



CHATERED ON NOVEMBER 21, 1955

2019年6月

札幌クラブ

c/o YMCA
MINAMI 11 NISHI 11
CUO-KU SAPPORO
〒064-0811
011(YMCA561)5217

The Service Club of YMCA

The International Association of Y's Men's Clubs

強調月間： 評価

— 主 題 —

国際会長	「Yes, We can change」	Moon Sang Bong (韓国)
アジア会長	「Action」「アクション」	田中 博之 (東日本)
東日本区理事	「為せば 成る」	宮内 友弥 (東京武蔵野多摩)
北海道部部长	「その先のワイズへ」	二本松能敬 (北見)
札幌クラブ会長	「楽しいワイズ」	柴田 伸俊 (札幌)

札幌クラブ役員

会長	柴田 伸俊
副会長	伏木 康
書記	小野 健
会計	秋葉 聡志
直前会長	柴田 伸俊

今月の聖句

「あなたがたのうちのだれが、思い悩んだからと言って寿命をわずかでも延ばすことができようか。こんな小さな事でさえできないのになぜほかの事まで思い悩むのか。」

ルカによる福音書 12章 25～26節 宮崎善昭選

「第22回東日本区大会報告」

札幌クラブ会長 柴田 伸俊



390名のワイズが集い素晴らしい東日本区大会でした。個人的には久々の代々木オリンピック会場での宿泊でした。今回は何ととっても森重昭さんの講演がとても私の心に刻まれました。広島原爆ドームには以前に一度だけ訪れており、その折も非常なショックを受けて帰ってきた経験を持っています。一方森さんに関してはオバマ前大統領と包容したシーンは記憶に新しいのですが、詳しくも見ていなかったのが被爆者の代表だろうというくらいしか考えていませんでした。



ところが講演が始まった途端 12人の米兵捕虜の被曝死の映画の実写に始まり、その後の森さんの心からの叫びにこみ上げてくるものがあり手に持ったハンカチを離すことができませんでした。そう言えば以前広島を訪れた時、偶然朝鮮の人たちの慰霊碑に合い、こんな人たちも居るんだと心の中に引っかかっていたものが、講演中の米兵捕虜の話と被って見入っていました。さすがにその余韻を部屋でクールダウンするのが大変でした。こんな出会いを与えてくださった大会関係者の皆様に心から感謝致します。

有難う 森重昭さん



2019年5月例会
出席報告

在籍会員	8名	例会出席	7名	メネット	0名	コメント	0名	メーキアップ	0名
ゲスト(卓話者)	1名	ビジター	1名	計	9名	出席率	88%		

札幌ワイズメンズクラブ 2019年6月月例会

日時： 2019年6月19日（水） 18:30～20:30
場所： 札幌ビール園
札幌市東区北7条東9丁目 2-16
Tel. 0120-150-550
会費： 4,500円



北海道YMCAは昨年中国四川省の省都成都YMCAと姉妹提携を結びました。6月18～21日、成都から華総主事をはじめとする6名の視察団が来札しました。これにより成都Yと北海道Yの交流と相互理解が本格区的に始まります。

札幌ワイズは視察団を札幌市だけで北見YMCA、チミケップキャンプ場まで案内しました。19日（水）のフェアウェルパーティはYMCAと合流して成吉思汗で盛大に盛り上がりました。お互いの働きの学びあい、今後の交流の進め方で話は尽きず、有意義な合同例会となりました。あの勢いでは成都にもいずれワイズが出来ることでしょう。



写真右上： 成都YMCAから純正本物パンダを受け取る秋葉北海道YMCA総主事。ご存じですか？四川省はパンダの故郷、マーボ豆腐発祥の地です。一番人気のある娯楽はマージャンとのことです。

何故この聖句を 宮崎 善昭

医学が発達して人間の寿命は延びていますが、単に長生きして意味があるのでしょうか？私たちに問われているのはどの様に生きるかでしょう。その日は思い悩むが、明日には新たな人として生きる希望を与えられることが誰にも約束されていると信じています。

札幌ワイズメンズクラブ5月例会報告

日時： 2019年5月21日（月） 17:30～19:30
場所： 北海道101教室
出席者： 会員 秋葉、小野、佐藤、柴田、中田、伏木、宮崎

ゲスト 池田（卓話者）他1名 合計 9名
十勝クラブの池田正勝ワイズのご長男創造君が立派に成長され、牧師となられ、昨年札幌国際キリスト教会の主任牧師として赴任して来られました。ご多忙中ようやくお出でに頂き、国際的な視野に立った伝道のあるべき姿について示唆に富んだお話を伺うことが出来ました。（p.3 参照）



札幌ワイズメンズクラブ5月事務会報告

日時： 2019年5月24日（金） 19:00～
場所： 北海道YMCA 総主事室
出席者： 佐藤、柴田、伏木、秋葉、
欠席者： 宮崎、中田

※柴田会長の都合により日程変更

1. 6例会、巻頭言、聖句

日時： 2019年6月19日（火） 18:30～20:30
場所： 北海道ビール園

中国・成都YMCA、北海道YMCA交流会を開催 一人/¥4,500

誕生日、結婚記念日： 誕生日 なし
結婚記念日 なし

巻頭言： 柴田伸俊

聖句： 宮崎善昭

2. 北海道部(宮崎次期部長)に関して

北海道部会 8月31日(土)

3. 6月事務会

日時： 2019年6月25日（火） 19:00～

4. チミケップワーク

日時： 2019年7月13日（土）～14日（日）

参加者： 柴田夫妻、宮崎、伏木、

5. 7月、8月のYMCA行事、準備

6. その他：

教会から見える札幌の国際化

札幌国際キリスト教会主任牧師 池田創造



皆さんには大変お世話になっております。

私は2017年4月から札幌での生活を始め、中央区北4条西11丁目の札幌国際キリスト教会の牧師として仕えています。その前の17年間は東京近辺で暮らしましたが、札幌ほど外国人を肌身で感じることはありませんでした。

5月21日の北海道新聞朝刊には「外国人労災2.5倍の110人」とあり、技能実習生がその半数を占めているとの記事がありました。道内外国人労働者は2万人を超え、この3年間で1.4倍になっています。

キリスト教界も国際化の波を受けています。牧師の高齢化に伴い無牧の教会が多くなるなか、韓国人牧師を多くの教団・教会で受け入れるようになりました。また、会衆の中にも外国人の方々が増えつつあることを耳にしています。

私が仕えている札幌国際キリスト教会（以下、Sapporo International Church、SIC）を一つの例としてあげます。SICはOMFインターナショナル（国際福音宣教会）が札幌都心でマンションに住まれる方々や外国人の方々のために、1984年に始めました。32年間、多くの宣教師に導かれ、私は初代牧師として招聘されました。外国人宣教師が多く奉仕されていたこと、また好立地に教会があること等を理由に、現在あらゆる民族が呼び集められています。

教会活動の中心である礼拝は、日本語、中国語、韓国語、英語でささげられています。教会に集う方々の半数は外国人で、観光業をはじめあらゆる職種を持ち定住され、また短期滞在の留学生たちも多く集っています。今年の4月21日のイースターには、3名の技能実習生の方々が洗礼の恵みにあずかりました。家族を母国に残し、札幌での厳しい環境で生活をしながら、唯一の神に慰めを求めた方々です。教会は立場や民族の違いは一切関係のない所です。国同士の関係が悪くなっても、SICは一つの群れとして、弱い者に寄り添い続ける教会でありたいと願っています。

SICの生み出した国際宣教団体であるOMFインターナショナルは、1865年から宣教師を中国に送り始めました。中国共産化に伴い、東アジアにその働きを広げ、日本では北海道や東北を中心に120名ほどの宣教師が現在も日本の教会と協力しながらご奉仕されています。近年、多くのベトナム人が増え続ける日本ですが、宣教の自由がない国であるベトナムでの働きが閉ざされた先生方が、日本で働くという扉も開きつつあります。国際化が進む日本には、ノウハウを持っている国際的な団体が良い影響を与えることができます。

聖書では、異なる民族が一つにされて神に導かれることが一貫して教えられています。

「さらに、入り混じって来た多くの異国人と、羊や牛などおびただしい数の家畜も、彼らとともに上った。」 出エジプト記 12章 38節

「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。『わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。』」 マタイの福音書 28章 18節から 20節まで

「ユダヤ人とギリシア人の区別はありません。同じ主がすべての人の主であり、ご自分を呼び求めるすべての人に豊かに恵みをお与えになるからです。『主の御名を呼び求める者はみな救われる』のです。」 ローマ人への手紙 10章 12節と 13節

「その後、私は見た。すると見よ、すべての国民、部族、民族、言語から、だれも数えきれないほどの大勢の群衆が御座の前と子羊の前に立ち、白い衣を身にまとい、手になつめ椰子の枝を持っていた。」

ヨハネの黙示録 7章 9節

これらの聖書のことばで教えられることは、神は全人類を愛しておられるということです。国際化が進む札幌の地に住む私たちは、特に聞こえない声を聞き、隣人愛を実践する者でありたいと願われます。



札幌植物園西側にあるSIC